第６回山形県新博物館基本構想検討委員会の概要

１　日時

令和８年３月25日（水）　午後3時30分～午後4時30分

２　場所

山形県庁２階講堂

３　出席者

出席者名簿のとおり

４　会議の概要

○　資料１、資料２に基づき、事務局から、山形県新博物館基本構想の概要及び山形県新博物館基本構想（令和８年３月25日時点の案）の、それぞれ「６－２事業スケジュール（現時点の予定）」を除く部分について、前回委員会における意見及びパブリック・コメントで寄せられた御意見等を踏まえた修正点を説明し、各委員から御意見をいただいた。

○　参考資料に基づき、事務局から、令和８年３月23日に公益財団法人山形美術館から山形県知事に提出された要望書について説明した。また、資料２に基づき、「６－２事業スケジュール（現時点の予定）」について説明した。

○　当該要望書が提出された状況を踏まえ、事務局から、引き続き基本構想の検討を継続したい旨を示し、本委員会においてこれが了承された。

【各委員からの意見】資料１について

■伊藤委員長

・　第１章の「(1)本県の現状と課題」に掲載している写真の順番と、写真に該当する構想本文の文章との順番は、合わせたほうがよい。

・　第５章の「(3)建設候補地」に記載してある「霞城公園」の後に、「史跡山形城跡」と記載してほしい。博物館に来たら霞城公園及び山形城跡にもぜひ行ってほしいという点を強調していただきたい。

・　「６－２事業スケジュール（現時点の予定）」について、読みやすさの観点から、令和16年度と記載している箇所に西暦を加筆してほしい。

【各委員からの意見】資料２について

■小川委員

・　基本構想案は、これまで議論してきた様々な観点が相互に関連付けられ整理されている。今後、改善が必要となる部分が生じるかもしれないが、全体として一つにまとまっている。

・　「４－１組織体制」に関して、エデュケーターや広報・利用者サービス等の従事者を、中間的業務という表現から専門的業務に修正した点など、細部にまで配慮いただ

いた。

・　人口減少や気候変動等のリスクに対して、今後、新しい博物館がどうこたえていくかが重要な観点となる。また、世界的に文化的アイデンティティにかかわる分断が生じている中で、県立博物館は、県内各地域の博物館と連携し、県内４地域が持つ特色や多様性を伝えていく役割が求められる。４つの地域それぞれの文化的アイデンティティを結びつける拠点として、県立博物館の役割は重要である。

・　基本構想の検討は、これまで基本構想検討委員会を中心に行ってきたが、今後は、山形県立博物館の職員が本構想案を十分に咀嚼し、主体的に新博物館のミッション・ビジョンを構築していくことが求められる。運営体制を早期に整備し、開館時のビジョン及び具体的な活動内容について検討を進めていくことが重要である。

・　「５－４施設計画と構成」では、来館者の動線や利用者体験を重視した空間構成に関する記述があるが、これに加え、資料の収蔵に適した配置の確保といった考え方も重要である。特に、収蔵庫が管理部門と適切に連携できる配置が求められる。また、いわゆる「魅せる収蔵庫」や調査・研究の様子を可視化できる配置なども検討していくべきである。

■栗原委員

・　基本構想案はよくまとめられている。今後、基本構想を具体化していくに当たっての意見を述べる。

・　基本構想検討の過程において、最上川を博物館の中心的なテーマとしたらどうかといった議論があった。先日、埼玉県立川の博物館を訪ねた際、河川を主題とした展示のあり方について大変参考となる事例であると感じたが、埼玉県では、荒川が山形県における最上川のような役割を果たしており、荒川を主題とする展示が行われている。山形県においても、やはり最上川を主要な展示テーマの一つとして取り上げることが重要だと考えられる。

・　建設候補地は適地であると考えられ、評価できる。近接する山形美術館や最上義光歴史館との連携は言うまでもなく重要な課題であるが、建設候補地周辺は、文教エリアであるものの、カフェ等の飲食機能が十分とは言えない印象を受ける。今後は、博物館だけではなく、エリア全体を都市公園と捉えて、県のみならず関係機関と連携しながら、どのように賑わいを創出していくかを横断的に検討してほしい。

・　自然学習園については、県立博物館の分館として位置づけられており、本館の整備とともに、その活用のあり方について検討する必要があるのではないか。

・　新博物館の立地においては、近接してスポーツ施設の整備が予定されていることから、新博物館において、スポーツに関する展示を取り上げることが望まれる。

■河野委員

・　基本構想案は、第５回基本構想検討委員会での意見や、パブリック・コメントを踏まえて丁寧に修正されており、構想全体の整合性が取れている。

・　「５－２施設に求められる条件」の「(8)デジタル技術を活かした施設基盤の整備」について、来館者対応のオペレーションに関するデジタル技術の環境整備と、来館者への質の高い情報提供のためのデジタル技術の環境整備とでは、そのソリューション

が異なる。アーカイブと連動して情報提供するという意味にとどまるのであればこの表現でよいが、展示の内容とデジタルを積極的に絡めて、もっと感覚的で、魅力的な展示により、来館者の理解に繋げていく狙いがあるのであれば、この部分の表現はもう少し修正する必要がある。

・　基本計画以降の段階では、これまでも検討を重ねてきた「山形らしさ」について、改めて議論を深め、もう一段階解像度を上げる必要がある。最上川、あるいは４地域を有することが山形らしさかと言われると、それもやや座りが悪い印象がある。

・　「らしさ」という言葉を辞書で引くと、本来持っているあるべき姿や特徴がよく表れていることを意味するとされている。つまり、最上川そのものや、県内４地域それぞれの風土の存在そのものが「山形らしさ」であるわけではなく、これらの特徴を持つ山形県という全体的な特徴やイメージ、特筆した独自性などが現在どのように表れていると解釈するかが重要である。今後の検討段階で、これらの課題について取り組んでいく必要がある。

・　もう一つ考えておきたいのは、「らしさ」という言葉には主体と客体の両方の意味合いが含まれる点である。「山形はこういう場所なんだ」と自分たちが表現する宣言としての「らしさ」と、周りの人が「山形はこういう場所だよね」と思う客体としての「らしさ」がある。後者はブランディングにもつながってくるが、県民や国内市場に認識されている「山形らしさ」とは何かを踏まえたうえで、本施設を通じて、未来に向けて施設主導で伝えていきたい、新たな宣言や発見を提示するような「山形らしさ」をどう設計し、どのように提供していくかを検討する際、学芸員自らがどう考えるのかが非常に重要となる。また、県としてのプロモーションやブランディングの方向性と足並みを合わせていくかについても、調整が必要となる。これらの検討は新博物館のハード面、ソフト面すべてに横断的に関わる内容であるため、今後、丁寧に議論を重ねるべきである。

■佐藤委員

・　基本構想案は、議論の内容がまとまっており、評価できる。

・　「４－３事業運営」の「財政基盤の安定化」について、ミュージアムショップやカフェ等の付設により財源確保に努めるとあるが、これまでの委員会でも指摘したとおり、これらは収益確保の面で難しさがあるのが実情である。また、新博物館を直営で運営する場合、委託事業者によるショップ収入、カフェ収入は県の歳入として直接計上されない。さらに、ＰＦＩ等の運営手法については現時点で未定であることから、「財政基盤の安定化」の取組として位置付けることにはやや疑問がある。カフェやミュージアムショップをきっかけとして集客に寄与し、結果として入館者数の増加、入館料収入の向上につながるという流れであれば問題ない。

・　山形県内の博物館に勤める立場からの意見として、県内の既存博物館に加え、山形美術館や最上義光歴史館とも、丁寧に当事者の話を聞き、関係構築を進めることが求められる。山形大学附属博物館も、山形県立博物館と長く関係を築き、お互いに良い方向に進むことができるよう努めてきた。今後も相互に連携していきたいと考えるとともに、県内各館においても、それぞれが果たすべき役割を明確化し、それぞれの目的、使命を果たせるよう、議論を進めていくことが望まれる。

・　建設候補地には、近接して屋内スケート施設及び体育施設の整備が計画されている。来館者がエリア内をスムーズに行き交うようにするためには、縦割りではない横断的な体制を構築し、事業全体を俯瞰的にマネジメントする部署が中心となり、関係部署間の調整を図る必要がある。
・　新博物館のミッションやビジョンに関連するが、開館後の運営のあり方は非常に重要な観点である。基本計画以降の段階では、開館後、どのような展示や研究を行っていくのかについて、組織体制を整備し、早急に検討を始めることが必要になる。

■卓委員
・　基本構想については、近年の博物館を取り巻く社会情勢や政策を組み込んで整理されており、全体的に問題ないと考える。
・　ミッションやビジョンの検討に当たっては、今後、博物館活動の評価・測定手法についても併せて検討する必要がある。
・　県内博物館とのネットワークについて、新博物館の活動や役割に応じて、既存のネットワークの見直し、新しい関係性を構築することが必要である。
・　調査・研究について、新博物館には、総合研究機関としての機能が求められる。基本計画以降の段階では、博物館ならではの研究とはどういったものなのかを明確に示し、大学やその他研究機関との差異を打ち出せることが重要である。
・　新博物館の目指すところ、果たすべき役割を打ち出すのは重要だが、それによる学芸員の負担が過度に増大することを避けるため、エデュケーターや外部人材等をどのように取り入れていくか、今後具体的に検討する必要がある。

■松永委員
・　基本構想は、２年間にわたるさまざまな意見を取り込みつつまとめており、評価できる。
・　「４－３事業運営」の「財政基盤の安定化」について、「財政基盤」という言葉の意味が分かりにくい。財源確保よりも、同項ウに記載された「運営コストの最適化」という趣旨のほうが近いのではないか。
・　山形のゲートウェイとしての機能や文化観光の拠点を目指す観点から、スポーツ施設も含む周辺施設とどのように役割分担していくのか、周辺エリア全体を対象に検討が必要である。基本計画以降の段階では、どのように集客していくか、あるいは、どのように県内観光へ接続させていくか等について意識しながら検討を行うことが求められる。
・　開館してからのミッション、また、短期・中長期のビジョンを設定し、それに基づき必要な取り組みを具体化していくことで、学芸員、事務方職員の役割が明確になっていく。基本計画以降の段階では、ミッションとビジョンを明確にして、何を、いつ、どのように実現していくかを議論できればよい。

■結城委員
・　改めて基本構想を確認すると、博物館での学びを現地の体験につなげることや、五感を使った体験型の展示、学び、交流機能の充実などが盛り込まれており、期待が高

まる内容となっている。

・　建設候補地は交通利便性が高く、カフェなどの付帯施設が整備されれば、さらなる魅力向上が期待される。

・　「山形らしさ」については、来館者一人ひとりが博物館で見出していくことを大切にしつつ、一方で、その土台となる考え方については、多様な視点から丁寧に議論して、多くの人が共有できる形に整理していくことが求められる。

・　本構想案において、学び、交流、連携の視点が示されており、今後、県民が主体的に関わる機会が出てくると思われる。県民がどのように関わっていけるのかについて、具体的なイメージを示しながら、検討を進めることが望ましい。

・　さくらんぼを生産する農家としての立場から、昨年の山形県立博物館プライム企画展「さくらんぼ～山形県民、挑戦の結実～」は非常に魅力的だった。さくらんぼ栽培の歴史が持つロマンや、それを築いてきた女性たちの姿等を知ることができた。このような気づきを、我々が教えることはなかなかできないことであり、また、情報を自分で取ることも難しいことであるため、新博物館において、こういった気づきをどのように提供し、それをどのようにやまがた愛につなげていくか、具体的な仕掛けを検討していくことが重要である。

■伊藤委員長

・　２年間という限られた期間の中で、質の高い基本構想案がまとめられており、事務局の努力に敬意を表したい。

・　「３－１収集・保管」について、「除籍」の文言を削除することは慎重な判断として受け止めている。一方で、今後、除籍は避けて通れない課題であり、引き続き十分な検討が必要である。

・　同じく「３－１収集・保管」の「適切な収蔵環境の整備」における「公共施設」という表現について、山形市周辺だけではなく県内各地域の公共施設も含む趣旨であることを明確にする必要がある。新博物館の整備に関して、村山地域以外の方と話をすると、自分の地域は関係がないといった受け止めが見受けられるため、新博物館が県全体に関わることであることを明確にし、多くの県民の参画を促す観点を踏まえた表現にすることが望ましい。

・　「３－５学習・交流」の学校団体との連携についても、山形市周辺の学校だけでなく、県内全体の学校が対象であることを表現することが望ましい。

・　「３－６連携・協力」では、県内外の様々な施設との連携が示されているが、その実現に当たっては、県庁内部における連携が重要であり、このことを適切に表現できるとよい。

・　「４－１組織体制」について、職員の任命権者の変更等により、新博物館の理念や方向性が容易に変更されることがないような工夫ができると望ましい。

・　「５－１立地に求められる条件」に関連して、新博物館を避難所として活用することが想定されるのか整理するとともに、想定される場合には、必要な体制について検討する必要がある。

・　「５－３建設候補地」に関連して、建設候補地には新スポーツ施設の整備も計画されており、結果的には複合的な施設整備になることが想定される。このような複合的

な整備については、相乗効果の発揮や利便性の向上などの観点も踏まえた表現とすることが望ましい。

・　「６－２事業スケジュール（現時点の予定)」内の「令和16年度」という表現及び「参考資料２」の教育資料館の建築年「明治34年」には、西暦を併記することが望ましい。

【伊藤委員長の発言】今後の検討について

■伊藤委員長

・　２年間の議論で、新しい博物館の理念や機能については意思統一が図られてきたと考えている。山形美術館からの要望については、基本構想に関する重要な視点であり、今後整理が必要な事項であると認識している。

・　本日いただいた御意見やこうした状況も踏まえ、県からは引き続き基本構想の検討を継続したいという要望があった。本委員会はこれを了承し、引き続き検討を進めていくこととする。

以上